

もはや他者ではない

鍵となる聖句：「今や、あなたがたはもはや異邦人でも外国人でもなく、聖徒たちと共に市民となり、神の家族の一員となった。」

エペソ人への手紙2:19

選んだ聖句：

エペソ人への手紙2章11節～19節

イエスの贖いの血によって与えられた贖いを心から受け入れる者たちにもたらされる美しい結果の一つは、そのような者が無条件の献身によって自分自身を捧げる時、神との特別な契約関係に入ることです。この契約は、そのような者たちにとって新しい地位を意味し、彼らはもはや神から離反した者ではなく、神の息子として認められるのです。(ローマ人への手紙8:14-16; ヨハネの手紙第一3:1,2)これと調和して、パウロは別の場所で次のように言っています：「もし誰かがキリストにあるなら、その人は新しい被造物です。古いものは過ぎ去り、見よ、すべてが新しくなった。」 - コリント人への第二の手紙5:17

エペソ人への手紙**2:8-10**で、使徒は、この新しい子としての地位は、信仰によってのみ、神の恵みによって得られると述べています。 私たちには、それを達成するための行いはありません。彼は「私たちは彼の作品です」と言っています。しかし、この状態に達すると、私たちはキリスト・イエスを通して、神に受け入れられる行いをなす能力を得ます。これは一見矛盾しています。一方では、この新しい関係を得るために何の行いもできなかったのに、神との子としての契約に入った後、私たちは確かに、神に受け入れられる行いをなすことができ、またなすべきです。使徒ヤコブは言います。「信仰に業が伴わなければ、その信仰は死んだものです。」 - ヤコブの手紙**2:17**

神の子供としての私たちの業は、最も重要な点で、キリストという私たちの頭において根ざした性格の果実の発展と外的な現れです。（ヨハネ**15:8**；ガラテヤ**5:22,23**）受け入れられる業には、主、その真理、そしてキリストにある兄弟姉妹のために捧げる犠牲と奉仕も含まれます。 - ローマ人への手紙**12:1**；エペソ人への手紙**4:14,15**；ガラテヤ人への手紙**5:13**

私たちのレッスンで、パウロは異邦人の信者たちが「イスラエルの共同体から離れており、約束の契

約から遠く離れた者たちで、希望もなく、神のない者たち」であったと述べています。（エペソ人への手紙2:12）。しかし、キリストの血が、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、聞く耳と信仰の心を持つすべての人に対して効力を発揮する時が来ました。それぞれは、与えられた手段であるキリスト・イエスを通じて、新しい地位を主張する機会を得たのです。

ユダヤ人にとって、何世紀にもわたって「戒めの律法」の下で生きてきた者たちにとって、これはその体制から離れ、キリストへと移ることを意味しました（15節）。これらの以前の戒めを守り、それに付随する地上の約束を享受できるのは、完全な人間だけであることが完全に証明されていたからです。罪のないイエスだけが、このことを成し遂げることができました。しかし、彼はこれらの地上の特権を犠牲にすることで、ユダヤ人と異邦人を含む人類が罪と死の奴隷状態から逃れる道を提供しました。

thus, through Jesus, “we both [ユダヤ人と異邦人] have access by one Spirit to the Father.” – 18節

私たちのキー・ヴェルスで、パウロは、このような新しい関係に入った者たちは、以前の地位に関わらず、今や「神の家族」という一つのグループに属し

っていると述べています。この象徴的な「家」の基礎は「使徒と預言者たち」であり、イエス・キリストご自身が「最高のかど石」です。（20節）建物の工事が完了し、すべてのメンバー——すべての石——が形作られ、適切な場所に配置されると、それは単なる建物ではなく、「聖なる神殿」、神の「住まいの場所」となる。（21節、22節）この神殿は、象徴的な新エルサレムに所在し、メシヤの王国において、地のすべての家族に祝福が流れ出る源となる。

- 啓示録21:1-7,22-24